

# 支所だより

東予・丹原・小松の各総合支所管内での、身近な出来事や話題などを紹介するコーナーです。

## 東予総合支所

〒799-1394 周布349番地1 TEL0898-64-2700 FAX0898-65-4363

### 地域住民の交流と人権意識の高揚を

～第20回隣保館ふれあいまつり～

北星会館、河北会館では、地域の方々とふれあいを図り、人権意識を高めるために「ふれあいまつり」を開催しています。

【北星会館ふれあいまつり】（開催日）10月18日（土）※約350人が来場。〔内容〕小・中学生（壬生川・周布・吉井・多賀・国安・吉岡、東予東・東予西）の人権ポスター・標語の展示、生花・手芸などの作品展示、人権・同和教育講演会、ゲーム、お茶



北星会館ふれあいまつり

席、芸能発表（舞踊、カラオケなど）

〔問い合わせ〕北星会館 TEL0898-64-0321

【河北会館ふれあいまつり】（開催日）11月8日（土）※昨年は約800人来場。〔内容〕アトラクション（うち太鼓、手話による歌など）、児童生徒（燧洋幼稚園、三芳小・楠河小・庄内小、河北中、小松・丹原高校、四国朝鮮学校）の人権ポスター・標語、絵画など展示、健康相談、お茶席、バザー、芸能発表（詩吟、カラオケ）、丹原高校園芸科による菊の展示。

皆さんのご来場をお待ちしております。

〔問い合わせ〕河北会館  
TEL0898-66-2895



河北会館ふれあいまつり

## 丹原総合支所

〒791-0592 丹原町池田1733番地1 TEL0898-68-7300 FAX0898-68-4769

### 柿の歴史と将来

～今、柿が注目を集めている～

丹原地域の柿の歴史は、1924（大正13）年頃、長野地区を中心に植栽したのが始まりとされ、昭和の初年頃より愛宕柿の焼酎抜きが始まり樽詰めとして出荷、1940（昭和15）年頃よりガス抜きが考案され、販路が拡大し京浜市場まで出荷されるようになりました。

渋柿は脱渋して生食、干し柿、あんぼ柿、熟柿として食されているほか、抽出した柿渋（カキタンニン）で防水などの塗料や清酒の清澄剤として利用されています。また、抗がん作用、抗酸化作用、抗ノロウイルス作用、高血圧予防、二日酔い防止に効果があると言われているほか、焼酎漬けにし咳止めとして利用して

いる地域もあるそうです。

このように柿は、古くから日本人に親しまれてきた果物の一つで、カキタンニンは、昔から上手に利用されてきました。渋柿の有用性は今一度見直されるべきであり、今後の消費拡大に向けて加工品の開発や生産の可能性を大いに秘めています。丹原地域では、柿を象徴した看板や公衆トイレが右の写真のように道路沿いで見られます。



JAふれあい直販所付近



湯谷口バス停留所トイレ

## 小松総合支所

〒799-1198 小松町新屋敷甲496番地 TEL0898-72-2111 FAX0898-72-4048

### 伊予小松駅と「グループすみれ」

～地元の駅を大切に～

伊予小松駅は、今では1日の乗降客が500人に満たない小さな無人駅ですが、かつては、町の玄関口として急行列車「いよ」などが停車し、石鎚登山口の駅としても大変な賑わいを見せていました。



ボランティア活動の様子

この駅的环境美化ボランティアに、毎日携わってくれているのが、小松婦人会の地区役員で組織する「グループすみれ（代表 三村真里子さん）」の皆さんです。駅周辺の清掃活動や、

季節ごとの草花を駅前やプラットホームいっぱい育てて、駅を利用する乗客の目を楽しませてくれています。この活動に対して、10月21日「鉄道の日」の式典で四国運輸局長から表彰状が贈られました。

何よりこの活動が素晴らしいのは、世代を超えて半世紀近く継続していることや毎日の地道な活動の積み重ねであること、また、地域の障害者グループや小学生の参加・交流があることなどです。「無人駅になってもここは“地域の顔”。これからも大切に守っていききたい」という三村会長の言葉は、地元の皆さんの思いでもあります。



「グループすみれ」の皆さん